



いずみ

令和4年7月22日
第 4 号

実りある「時間」を過ごすために

校長 牧 勇 人

いよいよ夏休みが始まります。今年は7/23(土)～8/28(日)の37日間、約5週間あります。この期間を、ぜひ充実したものにしてください。

さてここで、ドイツの物理学者アルベルト・アインシュタインが発表した「相対性理論」について、少し述べたいと思います。

みなさんは、今何時か時刻を知りたいときに、何を見ますか？ そう「時計」ではないでしょうか。一定のリズムで刻々と時を刻むので、時計が示す時刻は「絶対」ということになります。ところが「相対性理論」では、「時間は相対的に決まる」となります。例えば、物体の速さが光の速さに近づくと、その物体の時間の進みは遅くなるということです。

実はこの理論は、私たちの「脳」の働きについても言えます。

興味も無く、つまらないことに取り組んでいるとき、脳はその時間を長く感じるという性質をもっています。一方、物事に集中していると、その時間は短く感じられます。没頭して勉強したり本を読んだりしていると、ハッと気付くともう数時間経っていたという経験は、誰しもがもっていると思います。

さらに、過去を振り返ったとき、いつまで続くかとやたら長く感じていた苦痛の時間の記憶はほとんど残らず、逆に没頭していてあっという間に過ぎ去った時間の記憶は、人に伝えることができるくらい鮮明に長時間残っているはずです。私たちが主観的に感じる時間は、脳がどのように動いているかで伸び縮みするのです。

37日間という時間は、「絶対的」に全員に同じように与えられています。この時間を、それぞれの中で「相対的」に長くなるようにすることが、自分を成長させる基盤となります。また「よい時間を過ごすことができた」と、自分を肯定し自信を付けるきっかけにもなります。お互いに、実りある期間にしましょう。

<7～9月の予定>

7月23日(土)～8月28日(日) 夏季休業

30日(土) 清水町フェスティバル (有志によるダンスパフォーマンス、ボランティア)

8月 6日(土) 第2回資源回収 (学校及び各地区で回収する予定です)

11日(木) 山の日(祝日)

12日(金)～16日(火) 学校閉庁

22日(月) 3年登校日(第2回確認テスト)

29日(月) 2学期始業式

9月 2日(金) キャリア学習講演会(1・2年)

9日(金) 事業所訪問マナー講座(3年)

16日(金)～18日(日) 市中学校新人大会

19日(月) 敬老の日(祝日)

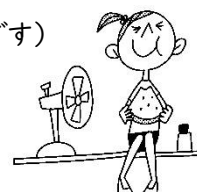
23日(金) 市統一学校公開日

秋分の日(祝日)

26日(月) 代休

29日(木) 企業見学(1年)

30日(金) 生徒会選挙



6/24(金)先輩に学ぶ講演会

演題 「もう終わり」とあきらめそうになった瞬間からほんとうの勝負は始まる

講師 商品ジャーナリスト 北村 森 氏

北村さんの実体験に基づいた、ユーモアを交えたお話に会場中が釘付けでした。「もう終わった」という時でも、その時の自分に「あるもの」と「ないもの」を分析し、行動することが大事だと話されました。

- 北村さんは、あきらめずに何とかしようととにかく行動し、考えて、困難を乗り越えられました。今回のお話の例では、ピンチを乗り越え、何事もなかったかのように仕事に間に合ったことを聴き、本当にすごいと思いました。私も部活動で、「もう終わり」となっても、そこからたくさん粘って勝負しようと思いました。もし、思い通りの結果がでなかったとしても、粘ってよかったと思えるように頑張っていきたいです。 (1年)
- 生きているなかで誰にでも困難がやってきます。それでもあきらめずに、冷静に物事を判断できる北村さんは本当にすごいと思いました。私なら、頭を働かせる余力もなく、方法も思いつかないのではないかと思います。今回の話を聴いて、目の前に何か困難が立ちはいだかつて、まずは自分に何があって何がないのかを考えて行動することと、どんな手掛かりがあるか、どんな方法があるかを考えて過ごしてみたいと思いました。 (2年)
- 今まで、アニメや漫画で、「まだ試合は終わっていない」「チャンスはまだ残っている」と言って成功する場面を目にすることはあったけれど、現実では、あきらめたり、最終的には失敗したりすることがあるので、今回の話にとっても納得することができました。あきらめずに最後までやりきることと合わせて、次にどう生かしていくのかを考えることが大切だと思います。今自分に「あるもの」と「ないもの」を考え、これからどうすればよいのかを判断していくことが一番大切だということが分かりました。 (3年)



7/4(月)~7/8(金) 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

3年ぶりに、「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を行いました。

仕事に触れ、苦労を身をもって感じ、様々な工夫を凝らしながら、人々に思いを届けることは、学校生活だけでは経験することができません。生徒にとって、日ごろとは違う環境で、緊張も多くあったようですが、生き生きと活動に取り組む姿から、5日間の活動期間において、真剣に取り組み、一生懸命にやり遂げることから、貴重な経験とすることができたことを実感しています。

様々な制約の中、快く引き受けてくださった18の事業所の皆様、実施期間中、昼食の準備や励ましの言葉をかけてくださった保護者の皆様、事業所での活度の様子を見守ってくださったボランティアの皆様にご心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

